



人生の先輩として、子どもたちが自分の力で生きていく手助けをしていきたいですね。

プロフィール

1962年、韓国・ソウル生まれ。41歳。大学の建築学科を卒業、1988年に研修生として来県。翌年、滋賀県内の企業に就職。機械関係のプログラムなどを扱う技術者。仕事のかたわら、ボーイスカウト大津15団カプ隊隊長を務める。1999年には、障害者のボーイスカウトを対象にした大会「アグーナリー」で通訳として活躍した。

んだと。結局自分も眼鏡をかけていますけど、眼鏡を取ってしまったら何も見えない。それだったら自分も障害者じゃないかと。そう考えると、世の中に本当の意味での健常者はいないし、線を引く必要もないですよ。参加した子どもたちも障害者たちも、みんなと一緒にだということ、いろんなプログラムに一生懸命挑戦していくところを見て、感動というか、これが本当の姿だなという感じを受けました。

滋賀県に来られたきっかけは？

滋賀県の海外技術研修員として選ばれ、約1年間研修を受けました。その後、一旦帰国したのですが、ちょうどそのとき1988年、日本ではバブル経済の真っ最中で、企業が新卒の大学生を採用するのが難しい時期でした。そこで、研修先の会社がうちで働かないかと声をかけてくれたんです。就職してから、ずっと滋賀県で仕事をしています。

初めてこられたときの滋賀県の印象は？

私はソウルで生まれて育ったので、こっちは田舎だなと思いました。その時は今と違って、7時くらいになったら商店が全部閉まり、人通りも少なかったので「とんでもない所に来たな」と感じました。

思い出に残っている交流はありますか。

来県したのがソウル五輪の時だったから、たくさんの方が自分の周りに集まって一番幸せな時じゃなかったかなと思います。五輪のシンボルが入っている服などを持っていたので、みんな欲しがったりしました。

ボーイスカウトとの関わりはいつから？

韓国ではボーイスカウトはたいいてい学校でやっていて、私も小学生の時はずっとボーイスカウトを学校でやりましたが、高校生を終えた時には、もうこれでボーイスカウトには縁がなくなるなと思ったんですよ。先生がボーイスカウトの指導者になるのが普通でしたからね。

それが、滋賀に来てしばらくたってから、私はカトリックの教会に通っているんですけど、その教会にボーイスカウトの団があったので、そこに入るようになったのです。

ボーイスカウトではどんな活動をしているのですか？

ボーイスカウトの活動は、小さい子どもか

ら大学生、一般の社会人までありますから、一貫性のある教育ができるんです。一つの目標を決めて、ステップアップしていくのです。その中で、最終的に良き社会人を作り上げようということ、自然とのふれあいやキャンプなど様々な活動をしています。そして私たちリーダーは、人生の先輩として自分たちが子どもの時やりたかったことや、こんなことをしたら良かったということをお話ししながら、取り組んでいます。また、ある年齢になれば、子どもたちがやりたいことをリーダーに話して、自分たちで計画を立てて実行する。そしてリーダーは案内役に徹するわけです。

ボーイスカウト活動をしている障害を持つ子どもたちが世界中から集まったとき、通訳をされたそうですね。

ボーイスカウトでは4年に1回「ジャンボリー」という大会を開催しているんですが、それとは別に「アグーナリー」という大会があります。これは障害を持っているボーイスカウトたちのための大会で、4年前に松山市で開かれた「アグーナリー」で通訳をしました。世界28カ国から参加があったんですが、韓国からも40人が参加したので、要請を受けたんです。

実際たくさん障害者たちが集まったときに思ったのは、この人たちは障害者じゃない



1999年に松山市で開催された「アグーナリー」で通訳として活動する徐さん。

将来の夢や展望は？

高校生ぐらいの年齢が所属するベンチャー隊で、韓国のボーイスカウトと手を組んで、子どもたちだけで韓国に行かせて、向こうのスカウトたちと活動する。また逆に韓国のスカウトを呼んで一緒に活動したいなあと思っています。最近はインターネットでいろんな連絡ができますから、自分たちで計画してプログラムを組んで、プログラムを実行して、それに対して反省する。そこまで一環してやってもらいたいなあということですね。私はトラブルがあったり問題が起こったときには、それに対して手助けをする。そして子どもたちが自分で立案から実行まで全部できるようにしてやってみたいというのが、自分なりの夢ですね。

滋賀県の人へメッセージをお願いします。

外国人は言葉ができないと、まるで子どものように扱われてしまうんですね。でも頭の中はしっかりした自分の考えを持っているので、もう少しそういう目で見たいと思います。

それと、滋賀県の場合は、すごく閉鎖的な感じを受けるんです。今、地球は一つだから、地域でみんな温かく受け入れてほしいなと思うんです。最初にスペースシャトルに乗った毛利さんが、「宇宙に出て地球を見たら、国境はなかった」と言われていました。国境というのは人間が勝手に引いた線ですから、みんなそんな気持ちで仲良く暮らせばいいなと思います。お互いに自分が住んでいる所が一番いいのですから。私が外国人だとかいう以前に、自分が住んでいる所ですから、この地域と一緒に良くして、みんなが幸せに暮らせたらいいいんじゃないかと思います。